

学習内容報告書 フォーマット

学校名	那智勝浦町立下里小学校
授業者	三隅祐子（第1学年）・山田めぐみ（第2学年）

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「生きものとなかよし」

1-2. 学年

第1学年・第2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

「海の時間」「生活科」「図工科」

1-4. 単元の概要

縦割り班活動による岩礁地帯のフィールドワークを行い海洋生物の観察を行う。事前学習では、実際にフィールドワークに行く場所の海洋生物カードを事前に作成、班単位で「神経衰弱」の形式でカードゲームを行って予備知識をつける。フィールドワーク時は、オリジナルの生物図版を使いながら海洋生物を探す。児童が興味を持った生物を各班で学校に持ち帰り、短期飼育する。飼育期間中に各教科で教材として取り扱う。事後学習として、上級生のプレゼンテーションにオーディエンスとして参加、海洋生物の知識を深めたり関心を高めたりした。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

校区内の岩礁地帯には、たくさんの種類の海洋生物が生息しており豊かな生態系を作っている。多様な海洋生物に実際に触れることは、児童の原体験となり生命尊重や環境保全の基礎を形成するものと考えられる。また、各教科の学習において質の高い教材としての働きを担うことが期待できる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

身の回りの生物に目を向けその形態や生態に興味や関心を持つ。生物の多様性や生命の不思議さに気づくと同時に生命尊重の意識を高める。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
0.5	<p><事前学習> 縦割り班活動で海洋生物カードの神経衰弱を行う。海洋生物に対する知識を深めながら興味や関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、上級生の指導が適切に理解できるよう補助を行う。 ・海洋生物への興味が持てたか。 ・生物名を数種類、覚えることができたか。 ・手作り海洋生物カード
3	<p><校区内磯場での海洋生物探し></p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班で行動する。 ・網を使って磯場やタイドプールで海洋生物を採取する。 <p><海洋生物調べ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・採取した海洋生物を図鑑で調べる。 ・短期飼育する生物を相談して決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、児童が危険箇所に近づかないように安全確認を行う。 ・図鑑で採取した生物と似た生物を探しているか確認する。 ・上級生の説明を適切に聞くよう指導する。
2	<p><「海」の絵の制作【図画工作】></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を元に「海」の絵を制作し豊かな海のイメージを育成する。 ・水槽内の生物を観察しながら絵を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察している生物の特徴を捉えられるよう適宜指導する。 ・自由な発想で表現できるよう助言する。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

生物を観察し、その特徴を自分なりに捉えて表現する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p><題材の選択></p> <ul style="list-style-type: none">水槽内にどんな生物がいるか、種類や数を確認する。 <p>【児童の反応】カニがエサを食べるときの、はさみの使い方に興味を示す。</p> <ul style="list-style-type: none">水槽内の生物から絵の題材としてふさわしいものを選ぶ。 <p><生物の描画></p> <ul style="list-style-type: none">選んだ生き物をしっかり見ながら絵を描く。生き物のようすについて感じたことを形や色使いを工夫しながら表現する。	<ul style="list-style-type: none">「水槽の中に生き物が何種類いるか?」「一番小さな生き物はどれか?」等、児童がどのような視点で生き物を見たらよいか分かるよう指導する。児童が能力に合った題材を選ぶよう支援を行う。極端に動きの速い生き物や小さすぎる生き物は避けるよう指導する。児童が感じた生き物の印象を具体化するため「どんな形?」「どの色を使う?」等、問いかけを行いながら絵を描かせる。 <p>【評価】自分の感じたことが適切に表現できているか。</p> <ul style="list-style-type: none">児童に、感想を求めて本時の活動を振り返る。

3. ・今回の活動の自己評価

生物を見る経験が浅い低学年児童にとって磯場での生物採取と同定、学校での観察は、新鮮で興味や関心を高める活動となった。図工科で取り組んだ「紙版画」では、魚や甲殻類の特徴を感性豊かに表現して、生き生きとした作品を制作した。成果物からは観察した生物が子どもたちに与えた影響の大きさがよくわかり、質の高い教材が学習の中で非常に重要であることがわかった。

また、学習形態として異学年の交流を取り入れることは、低学年、高学年それぞれの児童に「教師以外から指導される」あるいは「自分自身が責任を持って指導する」という役割を産み、それぞれの精神面での成長に結びついた。

4. 今後の課題

- ・本学習は、潮の干満や波のうねりなど自然条件に左右されることが多いため成果が安定せず、今後も授業者の自然環境への知識や指導力の向上が必要である。
- ・事後学習でも縦割り班活動を活用して成果物への評価を行い、児童の達成感を高める手立てを取りたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記事項なし

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。